

# ■ 安井息軒記念講演会 「安井息軒先生に学ぶ」



今年の講師は早稲田大学の古賀勝次郎教授、以前からご紹介していますように、近年において息軒研究を最も情熱的に、精力的に、そして組織的に展開していただいている先生です。

先生の研究のおかげで、単なる「幕末の大儒学者」に留まらない、新しい安井息軒の側面が、明らかになってきました。

## 儒学はもとより、法学、国学、洋学、蘭学……オールマイティの学者、「知の巨人」

息軒は江戸幕府が作っていたただ一つの学問所、今で言えば東京大学のような存在の昌平坂学問所の教授になりましたが、それまでの学者と大きく異なっていたのは、息軒が朱子学派ではないということです。息軒は一つの学派の考え方ではなく、ものごとを広く、そして深く考え、論証していく古学や考証学の立場をとりました。そしてそれが正しいことであれば、国学でも洋学でも蘭学でも躊躇(ちゅうちょ)なく採用する幅の広い学者で、息軒門下で科学への道を歩む弟子もたくさんいました。

## 近代的な法治国家への先導者

日本でも中国でも、道徳を重視し人としての生き方を追求する儒家と、経済を重視し国家や為政者の在り方を追求する法家の思想は、相いれないものとして激しく対立していました。その両者について最も幅広く、深く研究し、両者のよさを融合させたのが息軒でした。

時代が変わり明治になると、息軒の特に法学の知識や思想は重要性を増し、彼のもとには法体系の整備を目指す現職の知事や官僚たちが相次いで入門し、単立ち、法治国家の樹立に尽力していきました。井上毅、陸奥宗光、三好退蔵など息軒の弟子たちは東アジアに確固たる法治国家を建設していったのです。



# ■ 平成 29 年度先人祭



# ■ 安井息軒書道展

